

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.102

2008/05/21

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

毎年刈り払いを実施している湿原東側のトキワイカリソウの開花状況 (08/04/23)



楽舎前に設置された「保護区」の看板 (08/04/22) 訪問者が驚嘆されています。下山された訪問者の多くが、これほど保全作業がされているのは珍しいと、日頃の会員の皆様のご尽力に賞賛の声を惜しまれません。

4月後半から訪問者が絶えないのだが、昨年からは気がかりだった、「ブナの森」コースの階段補修作業が3月以降3回の保全作業で一応完了した。加えて数年来繰り返している、観察コース沿いの刈り払い作業の結果、春のトキワイカリソウをはじめとしてササユリ、スミレ類、チゴユリ、リンドウの発芽状況が抜群に改良され、



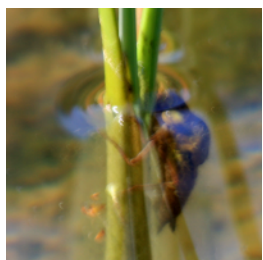
峠の「保護区」指定杭



「ブナの森」コースの階段補修作業 (08/04/19・4/30)

訪問者に言われるまでもなく、今年のトキワイカリソウの発生は実に見事でした。手を掛ければその分自然が報いてくれることを目の当たりに出来ました。ササユリも随分と分布を広げ、既に花芽が各所で確認出来ます。6月中旬には、またまた私達を驚かせてくれるだろうと期待しているところです。





10:00

ヤゴの頭が水面すれすれまで上昇してきた。これは比較的短時間に羽化まで進むのではと気楽に構えたものの、実際の羽化行動に入り出したのは 11 時 10 分からであった。この間ヤゴは水面と水中の間を何回も往復するという行動を繰り返した。エラ呼吸から気門呼吸への転換に必要な行動なのかも知れない。

## 何が観られるかはツキ次第

5 月 6 日「やまかど・森の楽舎」当番で 8 時半に楽舎着いた。当番業務開始の 9 時半までに湿原の様子を観ておきたいとの思いから

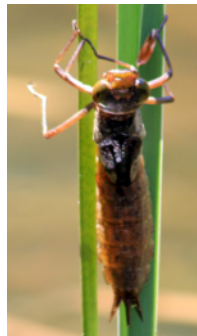
であった。目の覚めるような朝の新緑の景観を撮影して学舎に戻った。来訪者が来られるまでの間に、付属湿地の様子をくまなく観てみた。既にシオヤトンボの羽化が 4 カ所で始まっていた。水域部分に目をやると水中のヒメガマにヤゴが見えるではないか。これはこれから羽化行動に入るのであろうから、羽化の完了まで連続撮影をと決め込んだ。撮影場所を決定し長期戦に入った。10 時になって



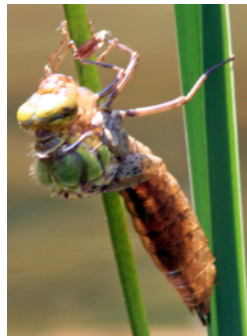
11:13



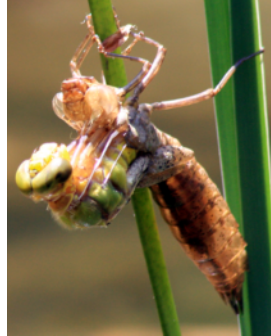
11:14



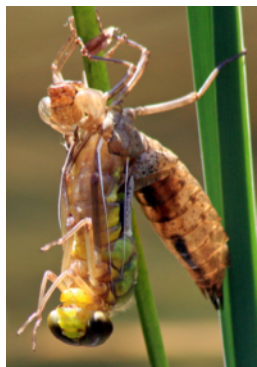
11:25



11:42



11:43



11:44



11:48



11:54



12:18



12:24



14:02

14 時 2 分の撮影直後飛翔し近くのスギの葉に止まった。羽化行動が始まってから実に 4 時間余である。この間不測の事態が発生しないというのは、かなり希なことであろう。事実ほぼ同時に羽化したもう 1 頭は、羽化したものの片方の羽が折れた状態で飛び立つことは出来なかった。

4 月 25 日 楽舎で湿地の様子を観察中に、前の電線にヤマガラが巣材らしきものを銜えてあたりを伺っている。近くに巣があるらしい。これは追跡が必要と腰を据えた。何と楽舎の前のポストに入ったではないか。これ又撮影のチャンスと連写を決め込んで撮れたのが右の画像。がこの巣材どうやらヤマドリゼンマイの綿毛のようである。

4 月 27 日カスミザクラの開花状況をチェックする



巣材を運ぶ (08/04/25)

べくパトロールに出かけたところ北部湿原でヤマガラの鳴き声。さては巣材を採取に??? 追跡と思う間もなく目のヤマドリゼンマイで綿毛の採取。こんなうまくいくものかと幸運に感謝。5 月 9 日伊藤博会員が、今度は餌を運ぶ状況を鮮明にキャッチ。5 月 14 日現在両親が懸命に餌を運んだり糞の後始末をする状況も撮影できている。下手な鉄砲も数打ちゃ当たるといけれど、チャンスに恵まれたことを感謝。



綿毛採取 (08/04/27)



餌を運搬 (08/05/09)

PHOTO BY ITO